

1. 大ホール.....	2
1-1. 【重点要望】座席数（1, 100席）の確保	2
1-2. 【重点要望】外部からの音（救急車・消防車等）の遮音が必要	2
1-3. チャイルドルームの設置	3
1-4. 評価が高い音響・演劇設備・内装を大切に維持	3
2. ホワイエ・エントランス.....	3
2-1. 【重点要望】喫茶コーナーの設置.....	3
2-2. 【重点要望】トイレの増設.....	4
2-3. 雨風・寒さを避ける開場前の待合場所の確保.....	4
2-4. ホワイエ単独で小さなイベントが行えるスペースとする.....	5
2-5. 階段下の通行危険箇所の改善.....	5
2-6. 車椅子の人の通るスロープ、手すりを.....	5
2-7. ホワイエ正面のガラス窓を床位置まで拡張.....	5
3. 舞台.....	6
3-1. 下手スペースの拡張.....	6
3-2. 釣りものの昇降操作は手動式を維持	6
3-3. 楽屋と舞台の間の出入り口を広げる.....	6
3-4. 上手ピアノ庫横のトイレは不要.....	6
4. 搬入口.....	7
4-1. 搬入車両向け門の拡張.....	7
4-2. ホール搬入口の横側の開口.....	7
5. 楽屋棟（リハーサル室含む）および集会室.....	7
5-1. 【重点要望】リハーサル室を利用しやすい場所に移設.....	7
5-2. 【重点要望】管理棟のスペース拡張と集会室の増設.....	8
5-3. 楽屋の動線の拡張.....	8
5-4. 楽屋2階と管理棟2階との連結.....	9
5-5. 楽屋入口の改善（スロープ化など）	9
5-6. 集会室の防音.....	9
5-7. 【重点要望】管理棟のカフェ設置.....	9
5-8. 集会室にギャラリースペースを.....	10
5-9. 集会室の段差を無くす.....	10
6. 設備、備品.....	10

6-1. 映写機およびスクリーンの更新.....	10
6-2. 空調、音響、照明装置の近代化.....	10
6-3. その他設備・備品の追加.....	10
7. 広場、駐車場、その他.....	11
7-1. 【重点要望】前庭広場を最大限に広げる.....	11
7-2. 【重点要望】広場を囲う土手の撤去.....	11
7-3. 【重点要望】噴水池の再整備.....	11
7-4. 【重点要望】外壁のライトアップ設備の設置.....	12
7-5. 大会等のイベント時用のバス駐車場の確保.....	12
7-6. ベンチや緑化など憩いのスペースに.....	12
7-7. コンクリ打ち放しの外観の復活.....	12

1. 大ホール

1-1. 【重点要望】座席数（1, 100席）の確保

米子市公会堂の座席数は、改修後も減らさずに維持することが重要です。現在米子市には、600席クラスの米子市文化ホール・500席クラスの淀江文化ホールがあるので、より大規模の文化イベントの会場として米子市公会堂が必要です。

また、米子市には2,000席クラスのコンベンションセンターがありますが、この会場は主に会議・展示会等のイベント会場であり、音響面や設備面に不足があり、生音の演奏会や演劇の用途に使うには問題があります。このため、米子市公会堂は、大規模の音楽・演劇会場として鳥取県西部に欠かすことができないホールです。

1-2. 【重点要望】外部からの音（救急車・消防車等）の遮音が必要

米子市公会堂は、交通量が多い国道9号線と県道に面し、近隣に消防署があることから、救急車や消防車がしばしば近くを通行します。このとき現状では、サイレン音が大ホール内に音漏れしてしまい、演奏会・演劇の妨げになっています。

原因としては、3階に窓があること、1Fのホール扉が薄いこと、搬入口の扉が薄いことなどだろうと推測していますが、改修設計の際にホール内部への音漏れ要因を検討い

いただき、外観の意匠には影響しない方法で遮音対策を施していただけることを望みます。

1-3. チャイルドルームの設置

乳幼児を持つ両親も演奏会・演劇を楽しむことができるよう、大ホールが観覧できるチャイルドルームの設置を望みます。ただし、ホール内の座席数を減らさないことを前提とします。設置場所として、現在はほとんど使用されていない3F奥の通路スペース（以前はバルコニーの出入りに利用していた）を活用したり、両壁面の照明コントロール室を別の場所に移すなど工夫すれば、座席数を減らさずにチャイルドルームを設置することも可能だと期待しています。

このようなチャイルドルームの例としては、米子市文化ホールが挙げられます。ただし、米子市文化ホールのチャイルドルームの場合、チャイルドルームの防音に問題があり、ルーム内で子供が騒ぐとホール内に音漏れするため、残念ながら多くのイベントで使用禁止にせざるを得ません。米子市公会堂にチャイルドルームを設置する場合は、このようなことがないように、十分に防音の配慮を望みます。

1-4. 評価が高い音響・演劇設備・内装を大切に維持

現在の米子市公会堂は、50年前の建築であるにも関わらず、音響の評価が高いです。県内の音楽関係者からは西部随一の音響のホールとして評価されています。また、演劇関係者からは、数多くのバトンなど演劇設備が備わっていることや舞台と客席が近く感じられることなどが評価されています。邦楽・舞踊関係者からも、所作台などの設備が備わっていることが評価されています。

また、天井のデザインなど内装は昭和の大改修で改修されたものですが、その美しい意匠は愛着を持たれています。このたびの改修にあたっては、音響、演劇性能と内装に市民の評価が高いことを認識いただき、大切に維持いただけることを願います。

2. ホワイエ・エントランス

2-1. 【重点要望】喫茶コーナーの設置

イベント時に限定して喫茶コーナーなどを設置できるよう、最小限の水周り設備と電

源の設置とを望みます（喫茶店レベルではありません）。設置場所としては、現在のチケット売り場のようなスペースを工夫すれば良いと考えます。

実際、喫茶店に出張販売を依頼してコンサート休憩時間に提供している演奏会（レインボージャズオーケストラなど）もあり、大変好評を博しています。山陰の事例としては、益田のグラントワにはそのような設備がある。また出雲でもクラシックコンサート前にワインを提供しており、好評です。

2-2. 【重点要望】トイレの増設

現在、ホワイエのトイレは不足しています。演奏会・演劇などの際は休憩時間を長めに設定するなどの工夫も行っていますが、お客様アンケートでも「トイレが足りない」との苦情が複数寄せられることがあります。設置面積が限られるので難題だと思いますが、何とか工夫して増やしていただくことを望みます。例えば、地下に増設する可能性も検討していただきたいと思います。

2-3. 雨風・寒さを避ける開場前の待合場所の確保

現在の米子市公会堂は、開場前に並ぶお客様は吹きさらしになっており、雨風などの悪天候時や寒い冬場につらい思いをしています（特に高齢者）。米子市公会堂の場合、イベントによって違いますが、150名程度が並ぶことがあります。快適な待ち合いは人が集いやすい空間であり、利用促進につながると考えます。

現在、イベント主催者の配慮によって、悪天候時には開場時間を早める場合もありますが、例えば舞台設営が難しい演劇などの場合は開場時間を簡単に早めることができません。またイベントによっては、開場前の受付していない待合客もホワイエに入れて対応する場合がありますが、その場合、受付前の客と受付済の客とがホワイエ内に混在して混乱しているのが現状です。ホール扉に鍵がないために、受付前のお客様がホールに入ってしまうこともあります。

例えば淀江文化ホールの場合、ホールは決して大きくありませんが、待合スペースは確保されている。このような開場前の待合客が待機できるスペースを要望します。冬場の寒い時期が問題なので、屋外ではなく、屋内のスペースが必要です。

設置場所として、ホワイエ前に設置するホールが多いと思いますが、公会堂の場合は意匠的にホワイエ前は不適切と考えます。現実的な解決案としては、ホワイエ内部の横側のスペースを待ち合いに使うなど、ホワイエ内部を区切って待ち合いに使うことを提案します。現在はホワイエと大ホールとの間の扉が施錠できず、大ホールへの入場を防げない問題があるので、このような問題を解決願います。

2-4. ホワイエ単独で小さなイベントが行えるスペースとする

米子市周辺のホールでは、ホワイエ・コンサート等が開催されておおむね好評です。例えば、コンベンションホールでは「ナイトクルージング」、さなめホールでは「ジョイフルコンサート」、境港シンフォニーガーデンのロビーコンサートなどが行われています。

米子市公会堂でも、「虹の広場」と名づけてホワイエコンサートが何回か行われ、好評でしたが、これは例外的な使い方です。米子市公会堂の場合、ホワイエと大ホールとを仕切る扉に鍵がないため、ホワイエにお客様が入場したら、大ホールへの進入を防ぐことができません。施錠が適切に行える状態になれば、ホワイエ・イベントが可能になると考えます。

構造的な問題に加え、運用面の問題として、ホワイエだけを利用する料金体系を決めていただくようにお願いします。なお、利用促進のためには、あくまで大ホール利用を優先すべきだと考えています。大ホールのイベントは1年前には決まることが多いので、ホワイエのみの予約は3ヶ月前から受け付ける、などのルールを決めれば、トータルで利用促進になると考えます。

2-5. 階段下の通行危険箇所の改善

ホワイエの階段下は低くて頭をぶつけやすい部分があります。黄色の警戒色を塗るなど工夫もされていますが、それでも、頭をぶつける人がいます。意匠を壊さず改善・工夫を望みます。

2-6. 車椅子の人の通るスロープ、手すりを

入場した車椅子の人が円滑に大ホールの座席に移動できるよう、スロープや手すりの設定を希望します。

2-7. ホワイエ正面のガラス窓を床位置まで拡張

ホワイエ正面のガラス窓は、建築当初は床位置まで伸びるデザインでしたが、現在は下部が腰壁のデザインに変わっています。この度の改修では、村野藤吾氏の設計を尊重し、当初のデザインに再変更していただくことを希望します。

現在のデザインは、昭和の大改修の際に変更されました。当時は自転車で来場する人が多く、その人たちがぶつかって割れることがあったのが理由と聞いています。腰壁の内側に暖房器具も設置されました。現在の建築技術ならばこれらの要素はカバーできることと思いますので、当初の美しいデザインの復活を望みます。

3. 舞台

3-1. 下手スペースの拡張

現在、下手側は狭いスペースしかなく、出演者の待機や入れ替わりに支障をきたしています。下手スペースの拡張を希望します。

下手が狭い理由は、釣りものを操作する舞台装置を舞台近くに設置する必要があるためだろうと推測します。確かにその必要があり、難しい問題だと思いますが、可能な限りの工夫をお願いします。

3-2. 釣りものの昇降操作は手動式を維持

釣りものの昇降操作は、現在と同じように手動式を維持（または自動と併用）することを希望します。早い舞台転換が必要な場合、手動でなければ対応できないことが理由です。手動の操作にこだわる演出家もおられます。例えばコンベンションセンターホールは完全に自動式であるため、舞台演出に支障が出ています。公会堂は今までも演劇の舞台として評価が高いため、今後も優れた性能を維持したいと願っています。

3-3. 楽屋と舞台の間の出入り口を広げる

現在は楽屋と舞台との間の出入り口が狭く使いにくいいため、出入り口を広げることを希望します。

3-4. 上手ピアノ庫横のトイレは不要

上手のピアノ庫横に、トイレが設置されています。出演者の中にはまれに利用する人もいますが、ほとんどの利用者（出演者）はこのトイレを利用したことはなく、トイレが存在することすら気づいていない人も多い状態です。1F楽屋側のトイレが利用できればほとんど支障ありません。このトイレは撤去し、貴重なスペースを有効活用してください

4. 搬入口

4-1. 搬入車両向け門の拡張

米子市公会堂の搬入口は狭い道路に面しています。車両が進入する入り口が狭く、10tトラックは非常に入りにくい（断られることが多い）状態になっています。改善策として、トラックが入る道路沿いのフェンスや花壇の一部を開口し門も拡張すれば利用が容易になります。11tトラックが入れるような改修を希望します。

4-2. ホール搬入口の横側の開口

トラックを付ける搬入口の横側について、現在は半分が壁で閉じられています。その壁の奥はデッドスペースで物置状態となっています。この壁を撤去して開口すれば搬入作業が容易になり、スペースの無駄遣いもなくなりますので、改修を希望します。

5. 楽屋棟（リハーサル室含む）および集会室

5-1. 【重点要望】リハーサル室を利用しやすい場所に移設

現在の米子市公会堂は、リハーサル室を増築した経緯があり、リハーサル室の場所が楽屋の3階で、狭くて急な階段の上にあります。特に打楽器やコントラバス、琴などの大型楽器の運搬が難しいため、リハーサルがいつも打楽器なしで行われている状態です。吹奏楽コンクールなど複数の団体が交互に演奏する大会の場合は、狭い通路で団体の入れ替えは非常に困難で、怪我をしたり楽器が破損したりする危険をいつも負っています。リハーサル室の移動は構造的な難問だろうと考えますが、大会を誘致する文化関係者の立場からは、リハーサル室の移設が最大の要望です。

リハーサル室は、1Fまたは2Fで、大ホールからの移動が容易な場所にあることを望みますが、楽屋棟は構造上スペースが無いと考えますので、管理棟または地下（現在の空調機スペース）などを希望します。

なお、リハーサル室の用途としては、大ホール演奏会のリハーサルだけではなく、日常的な音楽や舞踏（フラメンコや太極拳など）の練習、サークルの集会など、多目的が想定されます。音楽専用の部屋ではなく多目的な集会室であることを望みます。例えば管理棟に設置される場合、吹奏楽のリハーサルをしても大きくは音漏れしない防音性能が必要ですが、一方で、窓があって自然の光が十分に入るような部屋でもあることを希望します。音響上は天井が高いことが理想的ですが、現実的な構造を考えると、天井の高さは現在の集会室と同じでも仕方がないと考えています。リハーサルに使う広さとしては、4スパン

分以上の幅が必要です（現在の集会室は最大5スパン）。

なお、吹奏楽コンクール等の大会誘致のためには、大会時に出演団体のリハーサル時間が重なるので、リハーサル用の部屋を2部屋準備する必要があります。このような大会誘致は年に数回ですので、通常のリハーサル室は1室としても、臨時にもう1室のリハーサル室として使える防音性が高い部屋が必要とされます。

5-2. 【重点要望】管理棟のスペース拡張と集会室の増設

米子市公会堂の集会室は、大ホールの楽屋の補完として利用するだけでなく、音楽やダンス、太極拳などの練習や、集会利用など、日々多様な目的で利用されています。利用率も高く推移しています。このような利用を促進するために、集会室の数を増やしていただくことを希望します。

そのために期待するのが、現在の管理棟のスペース拡張です。例えば管理棟の裏側は敷地に余裕があるため、村野藤吾氏の意匠を活かしたままでも管理棟の増築が可能だと考えます。また、現在空調等の装置が格納されている地下室についても、最新の機器に更新すれば大幅に省スペース化が図られると思いますので、改修後は活用できる余剰スペースが生まれることを期待しています。

現在の集会室には和室が一部屋ありますが、実質的に和室でなければならない利用件数は減っているという問題指摘があります。しかし一方で、現在の和室は、邦楽や舞踊団体にとって大切な練習場となっています。改修にあたっては和洋兼用など和室のあり方を再検討されると推測しますが、その際には、現在の利用者の意見を聞いたうえで十分配慮いただくことを希望します。

5-3. 楽屋の動線の拡張

前述のリハーサル室の問題に限らず、現在の米子市公会堂の楽屋は通路幅が狭く、出演者の移動に不便があります。特に多くの団体が参加する大会の際には混乱するため、大会誘致の妨げとなっています。改修の際には、楽屋と大ホールとの動線が拡張されるよう、最適な設計を実施していただくことを希望します。

現状で特に目立つ問題箇所は、楽屋奥の階段に面するドアの取り付け方です。開放時には扉が階段側に向かって開くのですが、この開いた扉が階段を塞いでしまうため、ドアを開くと階段が通行できない状態になってしまいます。ドアを無くすか、取り付け位置を変更いただくことを希望します。

楽屋の廊下を拡張するためには、楽屋形状の変更なども必要になるかと推測します。楽屋性能に関わる設計・検討の際は、楽屋の利便性に直結する問題ですので、利用者との協議の上で決定いただくことを希望します。

5-4. 楽屋2階と管理棟2階との連結

米子市公会堂は楽屋スペースが狭いこともあり、大ホールで大きなイベントを行う際には、集会室も控え室などとして大ホールと一体利用されています。現在は、2階の集会室から楽屋側に移動する際に、狭い階段を昇降する必要があります。特に集会室側の階段は狭く、利用者は危険を感じています。

ホールと集会室との一体利用を促進するために、管理棟2階から直接楽屋棟2階に行ける通路の新設を希望します。

5-5. 楽屋入口の改善（スロープ化など）

現在、集会室横側に面した楽屋入り口は、階段になっています。このために、車椅子利用者など障がい者が楽屋を容易に利用できません。また、大型楽器の移動や、舞台道具などの大きなものの搬入に不便を感じています。階段ではなくスロープ化することを希望します。

また、現在の楽屋入口の周辺は、洗濯場などが置かれ雑然としているうえ、分煙されない喫煙所となっています。洗濯場や喫煙スペースは必要ですが、設置場所やデザイン等を改善し、印象良く整理されることを希望します。

5-6. 集会室の防音

現在の米子市公会堂の集会室は、防音があまり考慮されていません。隣の集会室の音がそのまま聞こえるため、しばしば集会の妨げになっています。改修の際には、（リハーサル室に限らず）防音を考慮いただくことを希望します。例えば壁の防音性能を高めたり、2重窓化をお願いします。

また、現在の集会室は会議時に声が聞こえずらく、スピーカーを使っても聞きづらいことがあります。音響を考慮いただいたり、天井スピーカーの設置などを希望します。

5-7. 【重点要望】管理棟のカフェ設置

大ホールおよび集会室の利用者がイベント前後に軽食や喫茶を楽しんだり、会議室ではなくてカフェで簡単なミーティングをしながらコミュニティが活性化するために、管理棟に誰もが立ち寄りやすいカフェの設置を希望します。もしくは、広場にカフェを設置することも魅力的だと考えます。

なお、米子市民から「文化の殿堂」として親しまれている米子市公会堂ですが、一方で、

「文化関係者以外の人には立ち寄り難い」との声もあります。広い世代のさまざまな市民に利用が広がるような店舗の設置を願います。

5-8. 集会室にギャラリースペースを

集会室の壁面に、絵画や写真を展示できるギャラリー的スペースを希望します。

5-9. 集会室の段差を無くす

現在、集会室の入り口に段差がありますが、この段差を無くすことを希望します。この段差は、平成12年の鳥取県西部地震のときに生じたものです。

6. 設備、備品

6-1. 映写機およびスクリーンの更新

映写機とスクリーンを新しくすることを希望します（特にスクリーンを希望します）。

6-2. 空調、音響、照明装置の近代化

空調・音響・照明装置等について、現在の機器は時代遅れとなっていることを感じます。最新の性能を有するものに更新いただくことを希望します。

なお、現在は、舞台と客席の空調の制御が同一になっていますが、米子市文化ホールのように、別個に切り替えできる仕組みを希望します。過去の演劇の際には、舞台上は照明で熱いので冷房をつけたら、客席が寒くて多くのクレームが出たことがあります。また舞台装置によっては、幕などが客席と舞台との気圧差で揺れて困ることがありますが、空調の個別制御ができれば対策できると考えます。

集会室の冷暖房についても、効きが良く、部屋別に制御できる装置に更新いただくことを希望します。

6-3. その他設備・備品の追加

- (1) 楽屋のコインロッカー（過去に数回、盗難が発生しています）
- (2) ホワイエのモニター

7. 広場、駐車場、その他

7-1. 【重点要望】前庭広場を最大限に広げる

米子市公会堂の意匠は前庭部に向かって大胆に手を伸ばしているようで、前庭に集まる市民を歓迎しているようにも感じます。私たちは、広場の改修と市民の協力によって、改修後の公会堂前庭を「市民の広場」として賑わう空間になることを願っています。例えば、朝市“日曜市”、ノミの市場や近郷農家、商売人の市などが継続的に毎月〇日（〇曜日）開催されて定着することや、大ホールを使っていないときの野外イベント会場、大ホールと一体化したイベントの野外会場としての活用が図られることを願います。

広場を最大限に活用するために、公会堂広場の駐車場は最小限（障がい者用を含む15台程度）に限定することを提言します。その代わりに、公会堂利用者に対して、える・もーるなど近隣有料駐車場の割引サービスを制度化することを希望します。全国的には、市街地の駐車場は有料であることが一般的です。山陰の場合、松江市のプラバホールは有料（200円）、鳥根県民会館の駐車場は有料だが近くの県庁駐車場ならば無料利用できる、鳥取県民会館や倉吉未来中心は無料、など対応が分かれますが、米子市の財政事情から一定の利用者負担はいたし方ないと考えます。

7-2. 【重点要望】広場を囲う土手の撤去

現在の広場は土手で囲われていますが、この土手を撤去し、オープンなイメージの広場に変えていただくことを希望します。現在の公会堂は、「演奏会・演劇に行かない人は立ち寄りにくい」「文化関係者だけが利用する」というマイナス・イメージも持たれています。しかしこれからは、米子市の中心部にある「市民の広場」として気軽に立ち寄る場所になることを願っています。

7-3. 【重点要望】噴水池の再整備

公会堂の前庭の噴水『平和の泉』は、鳥取県西部出身の著名な彫刻家・辻晋堂氏の作品が設置されています。現在は噴水が使用不可になってしまっていますが、この噴水を広場のシンボルとして活かしていただくことを希望します。

噴水を活かす方法として、現在の噴水池のあり方にこだわる必要はなく、例えば「子供が遊べる噴水」「水のオブジェ」のような、時代に合った市民が親しめる噴水として再構築いただくことを希望します。

7-4. 【重点要望】外壁のライトアップ設備の設置

公会堂の外壁をライトアップし、村野藤吾氏の建築が注目されるような設備を希望します。

7-5. 大会等のイベント時用のバス降車場の確保

現在の駐車場は、通常は9号線沿いに入り口が1ヶ所ですが、大会等のイベント時には交差点側にも開口して2ヶ所の出入り口を確保して大型の送迎バスが通り抜けできるようにして、バス降車場が確保できるようになっています。大会の円滑な運営のために、このバス降車場の確保は非常に役立っています。駐車場を縮小した場合にも、大会等の特別なイベント（年に数回）の際には、臨時降車場として大型の送迎バスが通り抜ける構造を維持していただくことを希望します。

7-6. ベンチや緑化など憩いのスペースに

広場が市民の憩いの場になるようなベンチの設置と緑化の推進を望みます。ただし、現在の樹木については、数十年間に高さがホールに匹敵するまでに成長してしまっており景観の妨げになっていると考えますので、樹木を低くすることを希望します。

7-7. コンクリ打ち放しの外観の復活

現在の公会堂（管理棟を含む）の壁・柱など外観の一部は、コンクリの表面に吹きつけ処理がされています。実は村野藤吾氏の設計による建築当初は外観はコンクリ打ち放しだったのですが、現在の外観は昭和の大改修の際に吹きつけされたものになっています。レンガタイルとコンクリ打ち放しを組み合わせた当初の外観こそが村野藤吾氏の優れた美しい意匠です。今回の改修の際に、外観を復活していただくことを希望します。